

安楽寺だより

第39号

紙面内容

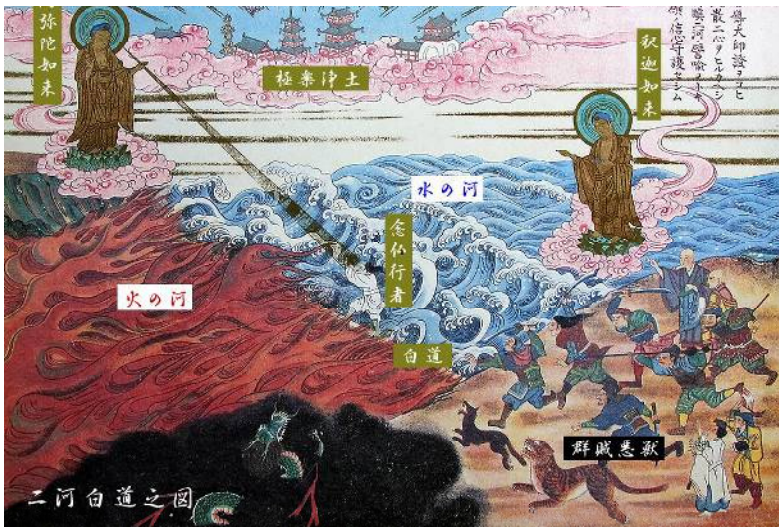
- 2面 疑問に答える(地獄と極楽は?)
- 3面 安楽寺定例法話をお勤めする
- 4面 日本仏教史補足 平安時代③

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

この人、喚う声を聞くといえども、また回顧(かえりみ)ず。一心に直ちに進みて道を念じて行けば、須臾(しゆゆ)にすなわち西の岸に到りて、永く諸難を離る。善友あい見て慶樂すること已むことなからんがごとし。これはこれ喩なり。

二河白道のたとえその⑫

親鸞聖人が大切にされた善導大師の『二河白道のたとえ』のおはなしは最終回になります。



阿弥陀さまに呼び覚まされて歩む白道

浄土を求める旅人が『喚ぶ声を聞くといえども回顧ず』とは、群賊等の誘惑に振り向こうともしません。なぜならば、お釈迦さまと阿弥陀さまの教えを聞いて、歩むべき白道をはっきり見つけたからです。聖人をはじめお念仏の教えに人生の問いを持って生きられた先人の方々がお勧めくださった道を、しっかりと受け止めることが出来たからです。

『一心に直ちに進みて道を念じて行けば』と説かれています。「一心不乱」は大事ですが、日常を生きる私たちには「一心」ということは成り立ちません。「一心とは如来の一心」つまり私たちを片時も忘れずに念じてくださる阿弥陀さまのおところに気づいた時です。「道を念じて行けば」とは、如来の本願によって開かれてくる白道に旅人はこころを開かれ、忘れずに歩みなさいという呼びかけです。

『須臾にすなわち西の岸に到りて』とは、白道を歩み始めると、すぐに西岸に到る、夢想の道ではありません。わが身はこの現実の娑婆世界にあつて、阿弥陀さまに呼び覚まされて一歩一歩をいただいて生きる道であります。

『諸難を離る』とは、生老病死をはじめ、挫折・苦境・孤独感など人間の心身に起こるすべてが、生きることの深さや豊かさを感じられる教えに出会って、苦難を乗り越える力に変えられることを表わしているのではないのでしょうか。

『善友あい見て慶樂すること已むことなからんがごとし』とは、善き友と出遇って、気づき合い、共に子育てをいただいで人生を歩み続けるのです。白道を歩む人生とは、善き師・善き友に出遇い、西岸に支えられてこの身を生きる歩みであります。

今回は『二河白道のたとえ』のまとめとします。

『善友あい見て慶樂すること已むことなからんがごとし』とは、善き友と出遇って、気づき合い、共に子育てをいただいで人生を歩み続けるのです。白道を歩む人生とは、善き師・善き友に出遇い、西岸に支えられてこの身を生きる歩みであります。

疑問に答える③

地獄・極楽は何処にある？

世界を見渡すと、戦争や地震などの災害で家族を亡くされ、家や仕事を失われた方々は、「地獄のような苦しみ」の中で過ごしておられます。地獄・極楽は何処にありますか？

地獄と極楽ということばが、日本人の生活の中に溶け込んできたのは、源信僧都が「往生要集」を著わして以後と思われまます。

「汝は地獄の縛を畏れるも、これはこれ、汝の舎宅なり」つまり、地獄は何処か未来の遠いところにある世界でなく、現に生きているこの場に存在しているのです。

一方、極楽というのは、最高に楽しいところということではなく、苦楽を超えた世界という意味です。苦楽によって自己を忘れていく世界ではなく、苦楽のいずれであっても、自分を本当に受け止めて生きてい

ける世界を見いだすところに極楽世界が現われてくるのです。

親鸞聖人は、「地獄一定すみかぞかし」（地獄にしか行くところの無い身です）と申されます。私の本当の相（すがた）を見極め、この生命において私が持つ罪業の深さが自覚される中に「地獄と極楽」ということばが知らされるのです。



大本山鎌倉光明寺蔵 地獄絵図

疑問に答える④

門徒と檀家の違いは？

浄土真宗では、よく〇〇寺のご門徒さんと申すことがあります。一般的にいう檀家さんとはどこが違うのですか？

親鸞聖人は、ご自分のことを門徒と申しておられます。「共にほとけさまの道を歩む人」ということです。その後、聖人の教えが在家の人々のなかに広まって、浄土真宗では、在家の信者を門徒と呼ぶようになりました。

檀家とは、古代インドの「ダーナパテイ」ということばから来ているそうで、檀越（布施をする人）という意味です。「檀越の家人」を檀家というようになったようです。つまりお坊さんに布施をすることで善行を積む人を檀家と言います。聞法することによってほとけさまの道を歩む人を門徒というようになったと考えられます。



因幡の源左同行(1842-1930)
真宗の教えを体現した妙好人

その後、蓮如上人在世の時代になつて、真宗の教えは急速に広まり、また本願寺が日本有数の大教団に成長したことで、門徒という呼び名が真宗の信者であるという意味として市民権を得たようです。

江戸時代になると、幕府は寺請制度を実施し、宗門改帳によって各家と個人は、信仰に関係なく各寺院に所属する檀家制度を確立させました。檀家は、旦那寺から寺請証文を受け、これなしには社会生活を営むことができませんでした。こうして檀家は、封建政治機構の中へ、組み入れられていきま

定例法話を開催

六月十三日、安楽寺本堂に於いて、定例法話をお勤めいたしました。梅雨に入ったばかりで、今にも雨が降り出しそうな天気でしたが、六名の皆様にお参りいただきました。正信偈をお勤めした後、荒山信師（恵林寺住職）にご法話をしていただきました。（荒山師には先代住職の頃から、数十年ご出講いただいております）



「私の寺でも、今春初めて永代経法要を中止致しました。コロナ禍の非日常の中で、これから世の中どうなっていくのかと想い、またこの

ような時だからこそ、つながりを生きていくことが大事だと感じています。

お釈迦さまは『あらゆる物事は、単独で存在しているのではなく、関係し合いながら成り立っている』と、『縁起の法』を説かれています。人と人・人と社会とのつながりを大切にしていくことが、今の世の中の状況は、特に求められているのではないのでしょうか。

「親鸞聖人は、正信偈の中で、『為度群生

「その歳になつて味わえる世界がある」

私は、何事も当たり前と過ごしています。が、そうではないよと教えられました。

「浄土真宗では、ほとけさまのお荘厳をことのほか大切にします。お花・お香・お蠟燭・お仏飯は、お念仏のこころを形となつて私たちに示されています。たとえば、花は限りあるいのちを限りなく咲かせ、お互いに尊重し合つて咲いています。そういう世界を私たちに伝えてくださっています。

彰一心』と申されています。『阿弥陀さまは、この世に生きている衆生（群生）に対して、ご本願に気づかせてお浄土に渡したい（為度）と願ひ、まことの信心を明らかにされています（彰一心）』どんな現実の中でも、生きていける道がある』と申されています。

「二年前に八十六歳で亡くなった父（荒山修師）は、生前病床で「負け惜しみに聞かせるかもしれないが、病でないといわれない豊かな人生があると申しておりました。

「曾我量深先生（一八七五～一九七二）は谷派講師は、歳を聞かれると『わたしは〇〇歳になりました。〇〇歳は初めてでしたね』と申されていました。歳を重ねると、その歳になつて味わえる、輝く世界がありますと、おっしゃっておられたのだと思います。」

お念仏をいただいで、いくつになつても、新しい発見ができる人生を歩むことが尊いことだと先人の皆様から教えて頂きました。

仏教豆知識

第三十九回



日本仏教史

補足③平安時代

源信僧都（九四二〜一〇一七）は、比叡山の天台学匠として活躍しました。当時、東堂横川の常行三昧堂を中心に発展した不断念仏は、貴族出身である藤原氏の僧に支配されており、その菩提寺のようになっていました。

源信は、こうした教団の世俗化に反発して、横川に同朋教団を再興するため、念仏結社運動の実践書・指導書として「往生要集」を著わしました。源信は、末法の時代の衆生が救済される道は、念仏しかないとの立場・観点から著述しました。

「往生要集」では地獄などの迷いの世界と、極楽浄土のありさまを対照的に描いて、願生浄土の教えを説き、大きな反響を呼びました。「往生要集」以後の浄土教をはじめ文学・芸術の面に至るまで多大な影響を与

えました。

平安時代の仏教の特色の一つに、一般民衆が浄土教信仰を通じて仏教に関わりあいをもったことです。当時の浄土教は、御堂を建て仏像や極楽浄土の莊嚴を感じて浄土往生を願う「観想念仏」でした。

民衆の中には、誰にでも修することができる「称名念仏」が普及・発展しました。これによって一切衆生を救済するという、大乘仏教の立場が明らかにされていきました。



源信僧都

新型コロナウイルス感染が世界中を席卷しています。日本国内では落ち着いてきたように思われますが、換気・消毒とマスク着用のほか、感染拡大防止のためにソーシャル（社会的）デスタンス（距離・隔たり）を保つようと、連日報道されています▼国民の一人として、可能な範囲で無理なく行いましょう。しかし、感染の恐れや不安な気持ちで内向きになり、感染者や疑いのある人に対し、偏見や差別の風潮を助長することは、慎みましょう▼昭和六年（一九三一年）国は「らい予防法」によりハンセン病感染者を隔離する政策を行いました。感染力は極めて弱いのですが、強制的に療養所に隔離されました。戦後も偏見の風潮は続き、患者と家族への言われなき差別は現在まで続いています▼感染症に対しては、周囲のことに惑わされることなく、正しい知識を学び、むやみに不安にならないようにすることが必要だと思います。